



外の世界を知ることが、

成果につながりました

DH ^{あやこ}高橋 絢子さん / 臨床歴7年
埼玉県総合リハビリテーションセンター 歯科診療部

リハビリテーションセンターで、発達障がいや機能障がいを持つ方の予防歯科に関わる高橋絢子さん。
外来患者さんのメンテナンスをしつつ、院内の口腔衛生指導も行なっています。
歯科衛生士として福祉の現場で役立ちたいという高橋さんにとって、Goodbye Perioプロジェクトでの活動はどんな成長へつながったのでしょうか。



しますから。

はじめて講師を務めたのは2年前。隣接面や縁下のケアを徹底するため、フロスの使い方をテーマにしたのですが……。結果は大失敗でした。うまく説明が伝わらず、「どうやって手に巻いたらいいの?」「あやとりみたいでよくわからない」と質問が飛び交うなか時間が過ぎてしまったんです。「やっぱり歯間ブラシのほうが使いやすいんじゃない」。その言葉に、ただただ悔しかったですね。自分にとってはあたり前のことでも、人に伝えるのはこんなにも難しいんだと実感しました。この悔しさもバネに経験を積んで、次は絶対に成功してみせると決心したんです。

それからは、いろんな勉強会やボランティア活動に積極的に参加。そのなかで知ったのがグツペリの活動です。一般の人にフロスの使い方を普及する、という内容を知ったとき、これだ! とピンとききました。

「おいしいものを食べさせてあげたい」「家族の想いに応えるために」

さっそく参加したのは、親子を対象にしたイベントです。グツペリメンバーがお母さんたちに説明するのを、耳をダンボにして聞きました。するといろいろな発見が。同じテーマなのに、経験や年数によって言葉の選び方が

Interview



次は絶対に成功してみせる!
気合いが入りました

私が配属されているのは、病院の歯科診療部です。主に、ダウン症や自閉症などの障がいを持つ方々を外来で診ています。外来診療に加え、入院患者さんの口腔ケアも仕事のうち。ここでは、看護師から専門的なアドバイスを求められることも多いです。病棟では多職種と連携しながら、歯科衛生士としてお口の衛生管理をすることにやり甲斐を感じています。

また、病院主催で年に1回開かれているのが介護職員向けの口腔ケア研修会。講師をするときはすごく緊張しますよ。受講者に知識やテクニックを身につけてもらえらうかが、介助される方のお口の健康を左右

まったく違ったんです。印象的だったのは、

「難しいと感じた部分はありませんか?」と相手から質問を引き出す声かけ。自分自身を振り返ると、一方的な説明になっていたなあと反省しました。活動を通して、視野がグンと広がりましたね。

その後も企業でのグツペリ活動に参加したり、発見したことを診療で実践したりして経験を積みました。そして去年、いよいよ迎えた勉強会の日。結果は大成功でした!

ほとんどの職員が、「フロスもちゃんとやりますね」と言ってくれたんです。多かったのは「手技に自信がなかったけど、これで患者さんにやってあげられます」という声でした。確かに、自分ができないことは人にもできませんよね。専門家である自分が、正しい方法を伝えていかなければと再認識しました。講義のあと、歯科医師から「外に出てみた成果があったね」と言ってもらえてうれしかったです。

健康な口腔であれば、食事の時間は思う存分楽しむことができます。患者さんご自身はもちろん、ご家族も「食べることは満足させてあげたい」と願っています。だからこそ、歯科衛生士が口腔衛生を守る方法を伝えることは使命。これからもその役割のため、どんな外の活動に参加して自分を成長させたいです!